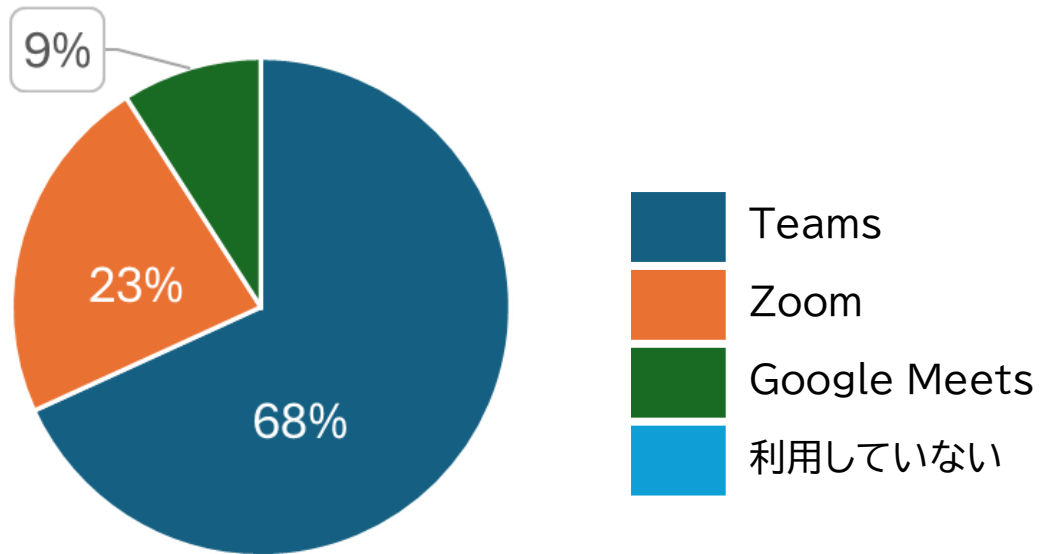


- 建設業ではデジタル化に伴い、設計や現場作業におけるDXの取組が積極的に推進され、業界全体での働き方が大きく変わってきている。
- 2019年度末にはコロナ禍による各種影響で、対面での会議の制限のみならず、室内での人と人の距離や出社まで規制されたことから、業界内全体で「遠隔でできる事は可能な限り遠隔で」との考えが浸透し、これまでは忌憚されがちであった「リモートでの勤務」や、「オンライン会議」が認められ始めた。
- 今では多くの企業がリモート会議や在宅勤務を取り入れ、現場でも遠隔立会や遠隔施工に向けた開発等がなされている。
- 本アンケートは、建設業におけるデジタル化のひとつとして挙げられる「Web会議システム」の活用状況を確認し、Web会議システムの導入による「業務効率化の状況」「利用機能・機器」ならびに「利用場所」から「今後欲しい機能」までを回答しやすい形のアンケートにし、各社に回答を依頼した。
- 本アンケートを通して、建設業における現在のWeb会議システムの活用状況と、今後期待する機能を調査し、建設業界におけるWeb会議システムの現状と課題をまとめることを目的とする。

Q3. 最も利用されているWeb会議システムは何ですか？ (単一回答)

- 最も利用されているのは**Teams(68%)**
- 利用されているのは**Teams、Zoom、Google Meets、のみ**

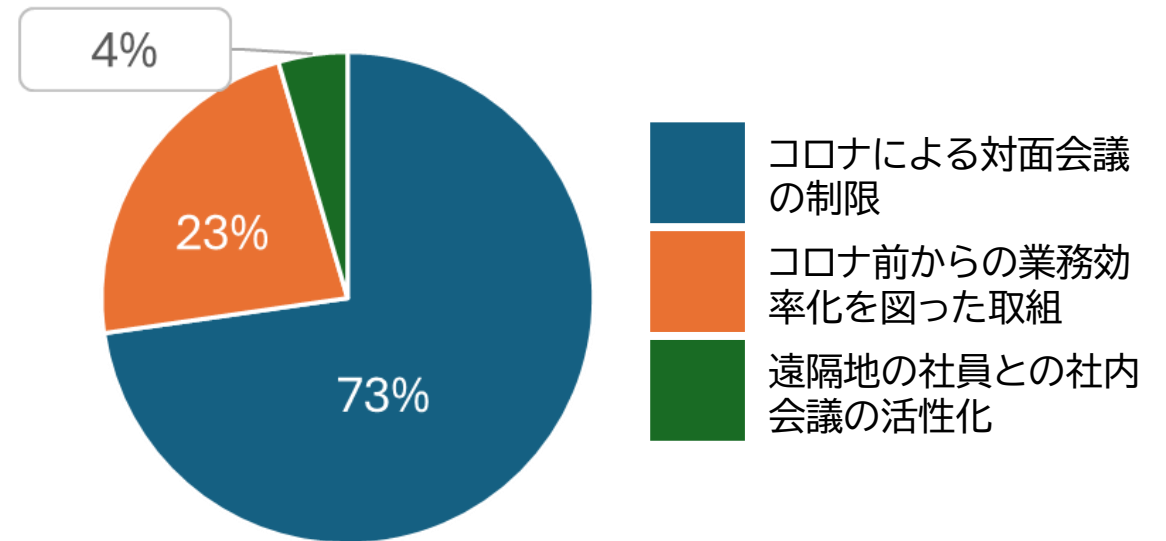


Q3:最も利用されているWeb会議システムは全体の68%を占めるMicrosoft Teamsであった。それ以外ではZoom(23%)、Google Meets(9%)と代表的なものが占めた。なお、本アンケートでその他の会議システムを回答したところは無かった。

※Q4利用していない理由:本アンケートでは該当なし

Q5. 利用のきっかけを教えてください。(単一回答)

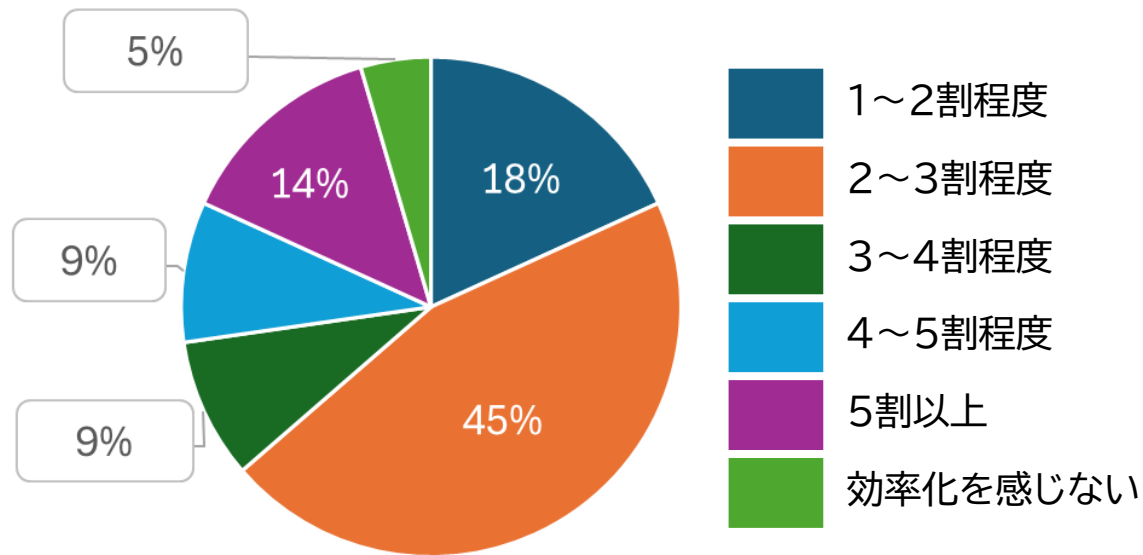
- きっかけは**コロナ**による対面会議の制限(**73%**)



Q5:Web会議システムを利用したきっかけは「コロナによる対面会議の制限」が73%と全体の約3/4を占め、近年では浸透しているWeb会議も、数年前のコロナ禍の影響によるものが大きいことが分かる。

Q6. web会議導入による業務効率化の割合を教えてください。(単一回答)

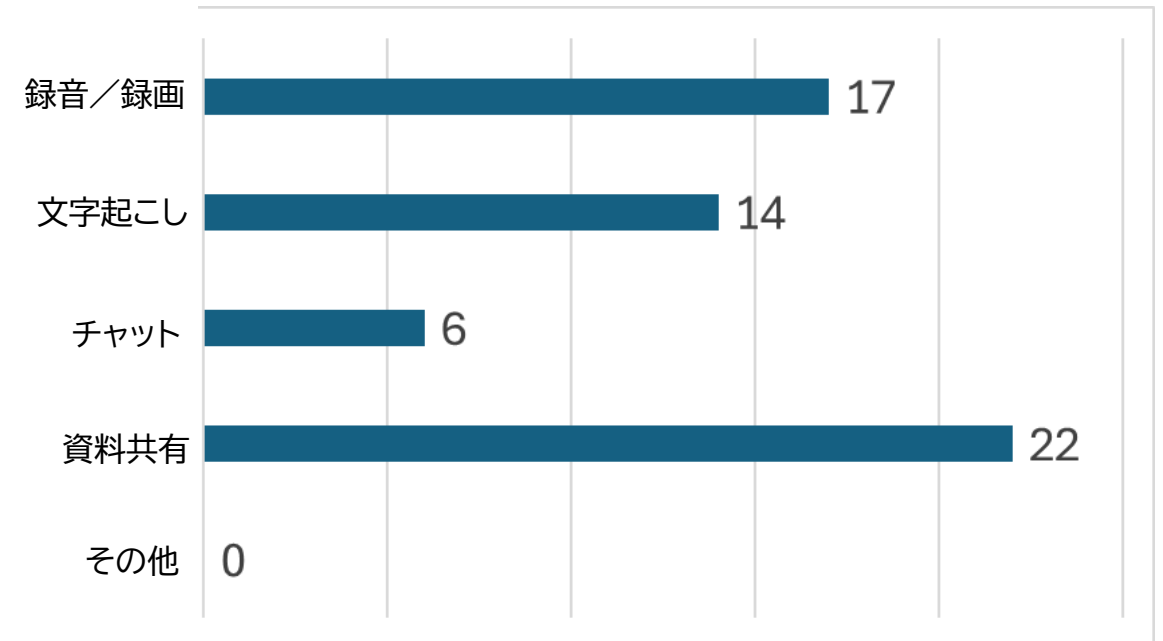
- Web会議の導入により**95%の人が1割以上の業務効率化**を感じている



Q6:Web会議を導入したことにより、95%もの人が1割以上の業務効率化を感じており、Web会議システムの導入により、建設業の業務効率化が一部図られたことは明確である。

Q7. 良く利用する機能は何ですか？(複数回答)

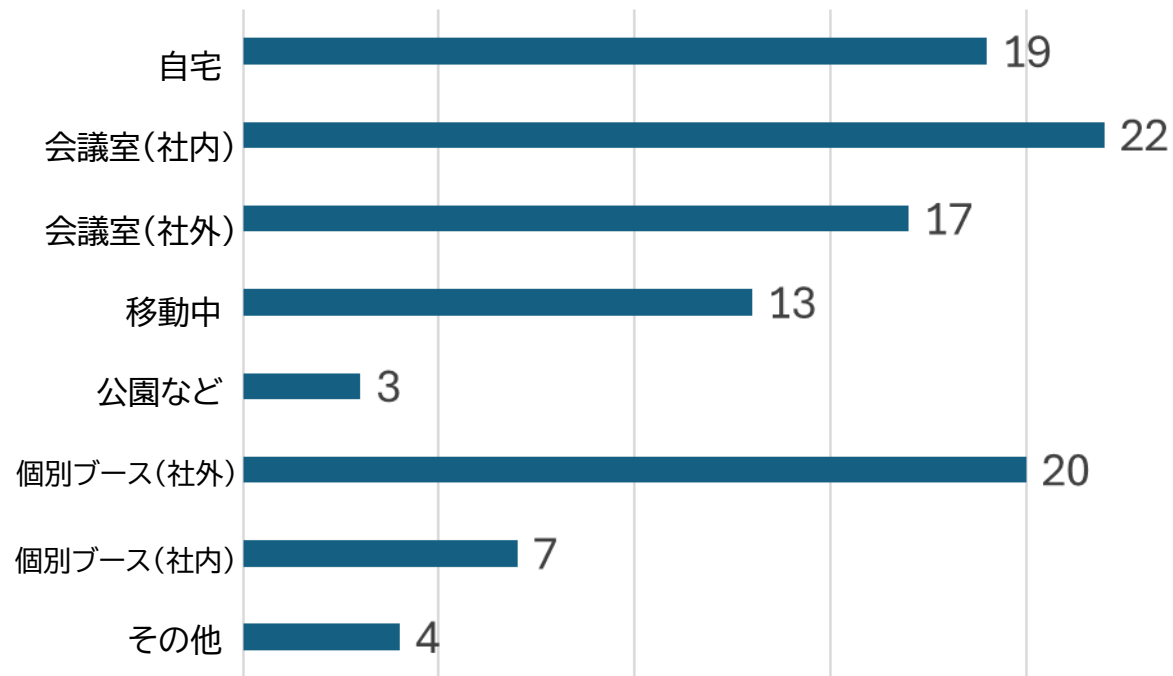
- 資料共有**が最大全数(22)
- 活用機能は**「録音/録画」「文字起こし」「チャット」「資料共有」**のみ



Q7:Web会議システムでよく利用する機能は、「資料共有」が22と、最も多く全ての会社で利用されている。「文字起こし」や「チャット」機能も利用されているが、その他の機能は活用されていないことが分かった。

Q8. どこから参加しますか(場所)?。(複数回答)

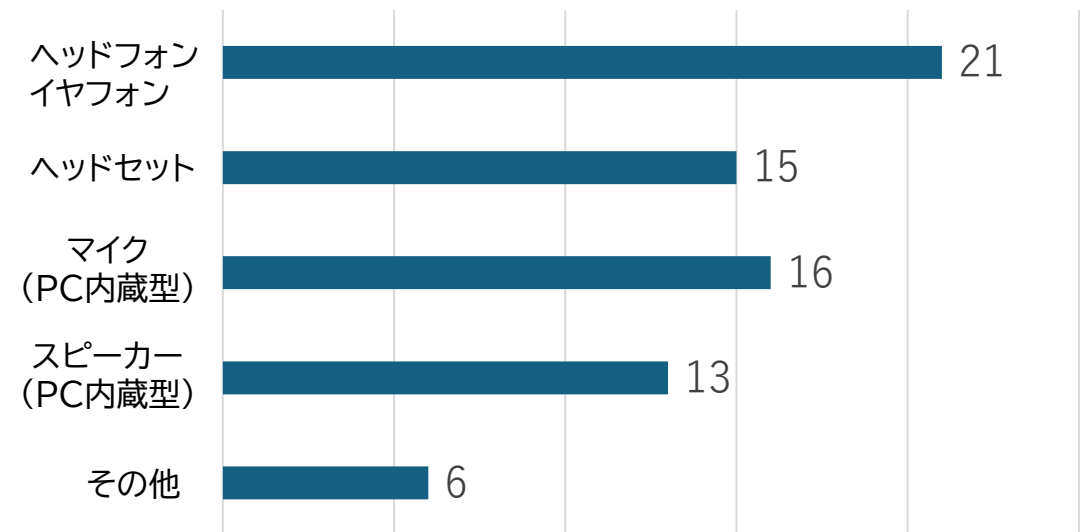
- 参加場所は**多岐**にわたる
- 「移動中(13)」「公園など(3)」と**従前は会議に参加できなかった場所からの参加**がある



Q8: Web会議を利用する場所は、「自宅(在宅勤務)」「会議室(社内外)」「個別ブース(社内外)」などの会議専用の場所にとらわれず、「移動中(車内等)」「公園(公共の場)」と従来であれば会議に間に合っていない、会議に参加できなかったような場所からも参加していることがわかる。

Q9. 利用機器について教えてください?(複数回答)

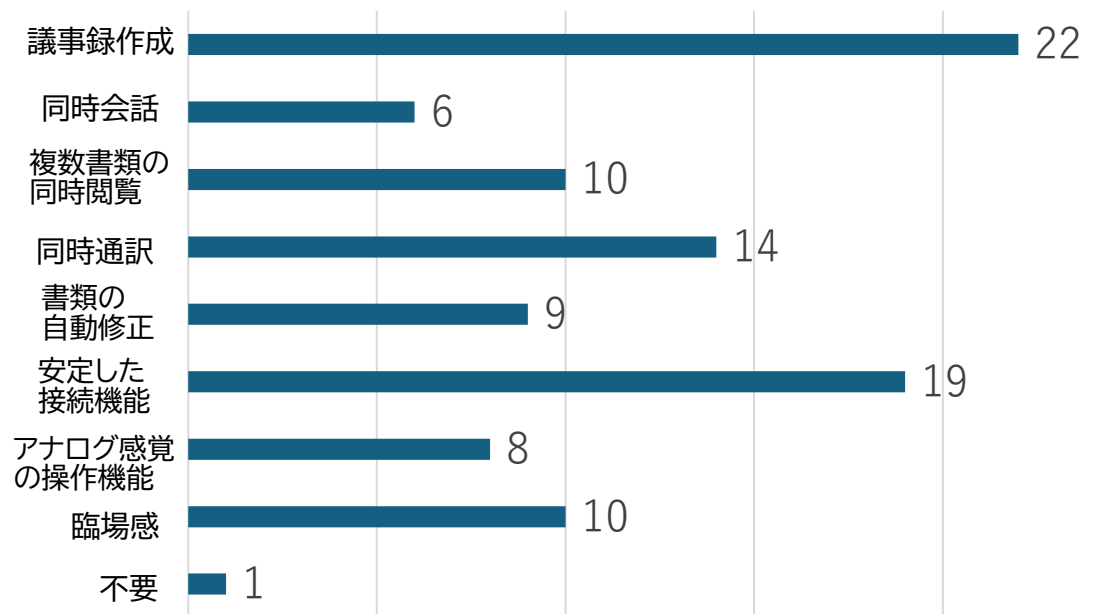
- 利用機器は**ヘッドフォン・ヘッドセット**など**持ち運びが容易**、会議のためだけの**特別な機器ではない**
⇒**Web会議システムの浸透**に繋がっている



Q9: 利用機器について、ヘッドフォンやヘッドセットなどが利用されており、持ち運びが容易でどこでも利用可能なもの、また会議用に特別に購入が必要なものではないこともWeb会議システムの浸透に繋がっていると考えられる。

Q10. 今後欲しい機能は何ですか？。(複数回答)

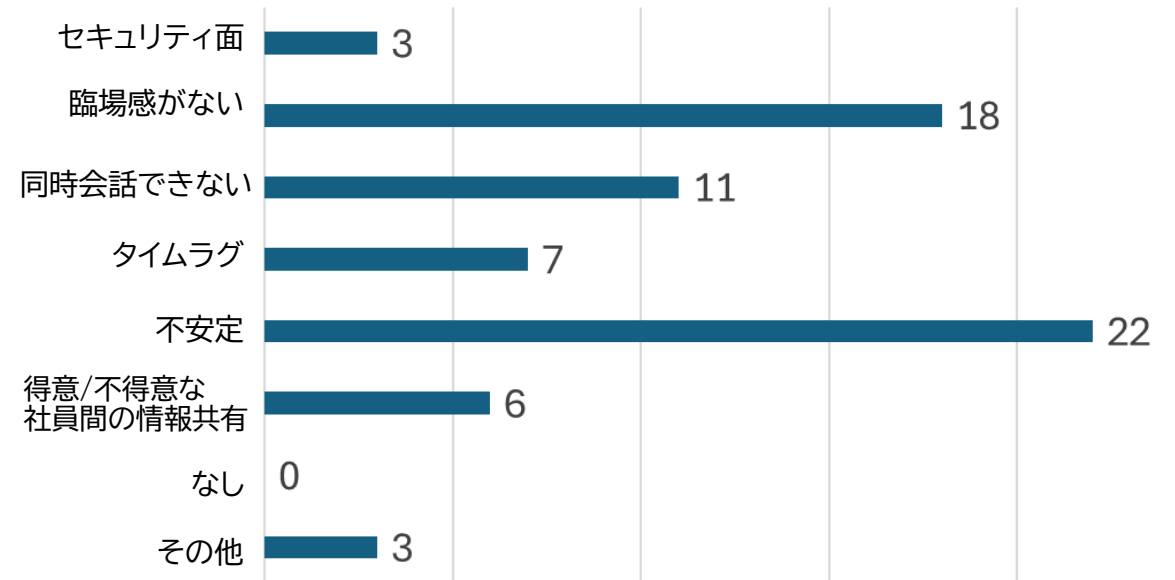
- 要望が多いのは「議事録作成機能(22)」「安定した接続機能(19)」
⇒トンネル等(土木工事特有)の通信環境の悪い場所での安定した接続が求められている



Q10: 今後欲しい機能について確認したところ、「議事録作成機能(全数)」と「安定した(通信)接続機能」が多かった。また、土木分野においてはトンネルの中等、通信環境が悪い場所での会議参加もあるため、通信が途切れることなく会議に参加できることが今後欲しい機能として挙げられている。

Q11. 利用してみて感じたデメリットは何ですか？(複数回答)

- 「不安定」が圧倒的多数(通信機能を重視されている)
- 「同時会話できない」「タイムラグ」「臨場感がない」などより現実に近い形での会議への発展を期待



Q11: 「不安定」が全数となっており、ここでも通信機能の安定が重要視されていることが分かる。一方で、「同時会話できない」「タイムラグ(がある)」など、通信関係とは違う声も上がっている。

- 最も利用されているWeb会議システムは「Teams」、その他「Zoom」「Google Meets」と続き、その他別のシステムは利用されていなかった
- 利用のきっかけはコロナによる対面会議の制限が73%と圧倒的に多い
- 全体の95%が1割以上の業務効率化を体感(利用機能は「資料共有」「録音/録画」「文字起こし」「チャット」のみであった)
- 会議の参加場所は多岐にわたるが、移動中や公園など、従来では参加が叶わなかった場所からの参加が可能となり、業務効率化に大きな影響を与えている

- 利用機器がヘッドフォンなど一般的なものであり導入を迅速化させていると考えられる
- 今後欲しい機能は「議事録作成機能」と「安定した(通信)接続機能」が他の倍程度と圧倒的多数
- デメリットに感じる点は「通信の不安定さ」が多く安定した通信接続機能が求められている

今後は、土木分野にとどまらずシステム開発系や通信関係の企業等と連携して、Web会議システムの機能拡張として正確な議事録作成機能と、安定した通信環境を確保できる機能が求められている。前者は、会話時の日本語のつくりを分解・整理し、並べ替える機能を拡張する必要がある。また後者は、使用デバイスの能力の拡張にとどまらず、現状のStarlinkやwi-fi中継器(TP-LINK)の補完的な活用も有効と考えられる。